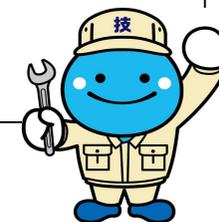


高等技術学校のあり方を検討するに至った経緯

- (1) 高等技術学校については、およそ半世紀にわたり、ものづくり分野を支える人材を育成するために技能・技術を身につける訓練を実施し、若年技能者の確保・育成といった観点から、重要な役割を果たしてきた。
- (2) この間、社会状況等を踏まえ、審議会の意見を聞いた上で訓練科目の見直しなどを実施してきた。
- (3) そうした中、少子化や進学率の向上などもあり、訓練生の数は大きく減少し、県議会からは「時代に合わせてカリキュラムを見直すべきではないか」「運営を民間にアウトソーシングすることも検討してはどうか」といった意見をいただいている。
- (4) 上記課題は全国的にも同様であるため、全国の公共職業能力開発施設においても、科目の統合や廃止、カリキュラムの見直しなどが進められている。
 徳島県 (R9~) : 機械技術科 (定員 15 名・R7 入校 1 名) と金属技術科 (定員 15 名・R7 入校 3 名) の統合
 自動車整備科 (定員 15 名・R7 入校 4 名)、木工技術科 (定員 15 名・R7 入校 3 名)、美容科 (定員 20 名・R7 入校 20 名) の廃止
 宮城県 (R10~) : 県内 5 校体制 (17 科・定員 295 名) ⇒ 仙台校 1 校 (13 科・定員 187 名) に集約
- (5) 少子化への対応は本県の重要課題の一つであり、学校施設の老朽化も進んできており、学校全体の今後の在り方を早期に検討する必要がある。



1. これまでの取組

訓練科目・カリキュラムについて

・概ね 5 年に一度、業界団体のニーズを聞きながら設定されたもの

入校生の確保について

・オンライン広告やオープンキャンパス、小学生向けイベント開催
 ・県内の中学校や高校を訪問し、直接、進路担当教員などに高等技術学校の取り組みなどを説明
 ・同様にハローワークを訪問し、担当者にも説明し、高等技術学校を紹介してもらうよう依頼 等

訓練施設について

・修繕を繰り返しながら維持してきた (両校ともおよそ築 50 年)

外国人材について

・外国人材を対象とした「在職者訓練」を実施している
 ※「在職者訓練」とは企業従事者を対象とした訓練であり、これまで溶接や金属塗装などの訓練を実施してきた (インドネシア・ベトナム・フィリピンを対象とした訓練が多い)

2. 各団体等の意見や課題意識

(県議会) 時代に合わせてカリキュラムを見直すべきではないか
 (") 運営を民間にアウトソーシングすることも検討してはどうか
 (業界団体) 業界全体の就労人数が不足している
 (") 人手不足であり、業界に関係する訓練科について必要性を感じている
 ※ 1 (") 早期の就職を目指すために訓練期間は短くてもよいのではないか
 (県) 県全体のスマートシユリンクの考え方を踏まえ、組織のスリム化を検討する必要がある

(県) 人口減少や少子化により、ますます入校生の確保が困難になってきている
 (") 高等技術学校では、科目ごとに入校生に大きな開きがある
 ※ 2 (") 中村校では、入学・就職とも幡多地域外という傾向が強い

(県) 建物の老朽化が著しく、改築や統廃合を含めた将来的な方向性の検討が必要
 (") 全国的にも職業訓練校における集約化やカリキュラムの見直しの動きが見られる
 (") 女性に選ばれるためには、トイレや休憩室などハード面での整備も必要

※ 3 (業界団体) 外国人材の受入れについては、必要性は感じているが、言葉の壁もあり、技術的な指導ができるか不安を感じている企業も多い
 (") 高等技術学校での「在職者訓練」については必要性を感じている